



参天製薬株式会社

2004年3月期 決算説明会

2004年5月10日

(見通しに関する注意事項)

この資料は参天製薬の戦略、計画、業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。従って実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。



2004年3月期の業績概要、次期見通しと 中期経営計画の進捗状況

取締役社長
森田 隆和



2004年3月期の業績概要

単位：億円、()内は対前期増減率

	2003年3月期 <u>実績</u>	2004年3月期 <u>11月予想</u>	2004年3月期 <u>実績</u>
売上高	902 (1.4%)	897	898 (▲0.4%)
営業利益	127 (7.7%)	131	145 (14.4%)
当期純利益	85 (60.3%)	61	63 (▲25.7%)
R O E	8.8%	—	6.3%



2005年3月期の見通し

単位:億円、()内は対前期増減率

	2004年3月期 <u>実績</u>	2005年3月期 <u>予想</u>	【参考】2006年3月期 <u>中期計画</u>
売上高	898	860 (▲4.3%)	930 (8.1%)*
営業利益	145	140 (▲3.7%)	180 (28.6%)
当期純利益	63	80 (26.2%)	100 (20.0%)
R O E	6.3%	7.4%	10%



中期経営計画について

新製品開発のスピードを落さず、中期目標の営業利益を達成するために
必要な事柄

国内

- 医療用医薬品
- 薬粧・サージカル事業
- 一般管理費関連

海外

- 米国
- 欧州
- アジア

新製品

- 臨床開発は予定よりも進展
- 研究開発費の増加は抑制



中期基本方針「収益力の回復」の進捗状況

	<u>2004/3期実績</u>	<u>2005/3期計画</u>	<u>2006/3期計画</u>
<u>米国事業の早期収益化</u>			
1.米国眼科薬	03/12販売提携	黒字化 (研開費控除前)	継続と改善
<u>費用削減の実施</u>			
2.製造原価	新容器本格導入	新容器へ切替え完了	追加施策実施
3.営業オフィス改革	主要オフィス移行	全オフィス移行	全面的寄与
購買改革	電子購買システム導入	対象が過半に	全面的寄与
業務サービス改革	—	改革策立案	改革策実施
<u>国内収益基盤の維持・改善</u>			
4.MR活動リニューアル	MR活動支援システム 導入	MR活動リニューアル開始 と基盤改革立案	全面展開
5.薬粧事業 など	—	コスト構造分析と 改革策立案	コスト構造 改革策実施



中期基本方針「研究開発力の強化・組織力強化」の進捗状況

	<u>2004/3期実績</u>	<u>2005/3期計画</u>	<u>2006/3期計画</u>
<u>研究開発力強化</u>			
6.新製品開発のスピードアップ	臨床開発要員増強とプロセス改革(緑内、角膜、抗リウマチ)	非臨床研究のスピードアップ	(優先プロジェクトは)臨床開発5年非臨床開発1.5年を達成
7.新薬開発候補の充実	有望なテーマに傾斜配分眼科薬創薬機能を充実	次期臨床開発候補品の充実(緑内、網膜、炎症)	充実目標を達成
<u>組織力の強化</u>			
8.企業統治機能の充実・強化	社外取締役の選任 取締役の任期を1年に短縮	継続予定	未定
9.人材育成・組織マネジメント力の向上	リーダー開発プログラム継続	継続	継続予定



利益分配－株主還元に対する考え方

[2001年3月期～]

- 自己株取得・消却を実施（資本効率化と需給ギャップ解消のため）
 - ・合計712.8万株 自己株消却実施
（2000年3月期末 発行済株式数の7.5%）

[2004年3月期～]

- 構造的な需給ギャップは解消しつつある
- 企業財政の柔軟性、健全性の維持と資本の効率性を考慮しつつ、配当水準の維持・向上に努める
- 自己株式取得・消却も株主価値や資本効率向上のための機動的手段として検討



資本効率の向上を図るという考え方に基づき増配を決定
資産・資本効率、P/L、C/F、配当性向、配当額などの観点から
検討し、年間40円配当を決定